

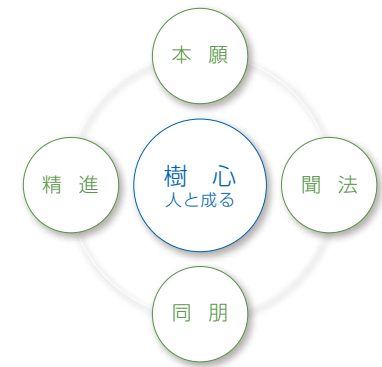
# Weを浴びてIが育つ Weの力でIが生まれ

東京に住んでいる次女から、「4歳になった長男の暢隆が、自分のことを盛んに「おれ」と言うようになった。教えていないのにね」とメールが来ました。それまでは自分のことを「のぶくん」と言っていた彼です。保育園の友だちに影響されたのでしょうか。あるとき突然に、私を発信する名乗りとなったのです。私の中に「おれ」と名乗る私が出現したのです。この冊子を手に行っている皆さんもいま自分のことを「わたし」「ぼく」と言います。暢隆君も、その私たちの仲間になったのです。私たちはそれを成長の自然なすがたと受けとめています。でも私は全面的に成長と言うのにためらいを感じます。その成長が見えなくさせているもの、失ったものはないのだろうかと思うのです。「のぶくん」は、家でも保育園でも、お母さんから、お友達からいつもそう呼びかけられて、その無数の積み重ねによって、やがて長い時を経て私が私を表現する言葉となりました。「のぶくん」と名乗る一人が生まれたのです。もし、そのように呼びかけられるという時を持たなかったならば、そのように「のぶくん」と名乗る私は生まれることがなかったでしょう。「のぶくん」と、呼びかけられる私は私が「のぶくん」であることは知らないままに、誰からもそう呼びかけられたのです。その時を生きることによって、「のぶくん」という呼びかけに振り向くようになり、「のぶくん」と名乗る私が生れました。もし、お母さんが「のぶ」と呼び、お父さんが「こういち」、おばあちゃんが「しんくん」と、周りの各人が個々別々の名を呼んだら、けっして「のぶくん」は生まれなかった。誰もが、いつもそう呼んでくれたおかげで「のぶくん」は生まれたのです。「おれ」が生まれる以前に生きられた、滋養に満ちた時がもたらした、恵みの名乗りなのです。世界の側からの不断の呼びかけがあり、それに応えて生まれた、「のぶくん」は世界と一体の名乗りです。では、一体である呼びかける世界は、呼びかけられる存在にとって、どのようなあり方をし、意味をもつ世界なのでしょう。わたしはそれを「Weの世界」と呼びたいと思います。日本語で言えば「私達の世界」ですが、「達」の字が「複数を示す接尾語」として用いられている語の構成と、「私」の存在が先ず有り、その後「私達」が成立するという印象をもたらすゆえ相応しくないものを感じていますので、WeとIで考えたいと思います。このWeとIは、bookの複数がbooksであるというように、何冊集めてもbookはbookであり、何か別な存在になるということはないというような、数の単複の関係であることを語形で示しておりませんし、Iが先、Weが後という先後を語形に表していません。私はそのことをとても大切なことのように思います。人は生まれて4年ほどの時を経てようやく「わたし」と名乗る自身を誕生させます。そのことを私は次のように考えています。わたしたちは先ず、Iの無いいのちとして生まれ出て、一人称Weを生き、その歩みのなかでIが生まれる。だから、Weが貧しければIは瘦せるし、Weが無ければIは生まれ出ることはない。Weの豊かさがIを豊かに育み、育まれたIがWeをより肥沃な世界にと耕すのだと。中学入学をいのちの新たな初事として受けとめてください。新しく集い合って始める学びと生活の時と場となる大谷が、豊かなWeの世界となり、Iが成長し、Weがさらに耕されていく日々となることをと心から願っています。



飯山 等  
学校長

## 学校理念



### 樹心 ～人と成る～

#### TO BE HUMAN

「今、ここ」が安心していられる「時間・空間」となる。  
それが「樹心(=心を樹てる)」ということ。

#### 本願 いのちを大切に

「今、生きているわたし」が大切に思えるとき、いのちは輝き、優しくたくましくなります。

#### 聞法 自分を発見する

だれとも比較しなくてもよい新しい自分を発見することで、生きる勇気がわいてきます。

#### 同朋 友と共に歩む

閉じた心を開き、わかり合おうとつとめるとき、友の鼓動が聞こえ、人の痛みがわかります。

#### 精進 本気でやりとげる

失敗をおそれず、自分をごまかすことなく本気になれば、世界が変わります。

## 校訓

真理を尊重せよ 義務を果遂せよ  
相互に敬愛せよ 不断に精進せよ